

2021年12月  
第84号

ひと ひと  
女と男

発行 沖縄市 市民部 平和・男女共同課  
沖縄市男女共同参画センター

〒904-0003 沖縄市住吉1-14-29(3階)  
(沖縄市社会福祉センターとの複合施設)

# きらめき

Kirameki

OKINAWA

## 沖縄市男女共同参画センター主催講座① 「ぽっこりお腹撃退！内臓ヨガ講座」

ヨガの呼吸と動きで、お腹周りの筋肉を刺激し、ぽっこりお腹の解消法を学びます。カラダの硬い方やご高齢の方でも安心してご参加できます。

- 日時 第1回 12月3日(金) 午後6時～7時30分  
第2回 12月10日(金) 午後6時～7時30分  
※第1回・2回とも同じ内容の講座を行います。
- 講師 金城 文仁氏  
(4DS内臓ヨガインストラクター・鍼灸師)
- 対象 市内在住・在勤・在学の男性の方
- 定員 第1回・2回とも8人(応募多数の場合は抽選)
- 申込期限 第1回 12月1日(水)  
第2回 12月8日(水)
- 受講料 無料

## 沖縄市男女共同参画センター主催講座② 「LGBTsについての講座」

性的マイノリティの人々が生きやすい社会についてお話しをしていただきます。

- 日時 令和4年1月21日(金)(予定)
- 開催方法 オンライン講座 (Zoom)
- 定員 15人
- 対象 沖縄市在住・在勤・在学の方
- 受講料 無料

※申込者へ開催前にオンライン講演会に参加するためのIDとパスワードをご案内します。

※オンライン講演会は Zoom を使用しますので、接続環境は申込者各自でご準備ください。

※ご視聴後、アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

※詳細が決定いたしましたら、広報おきなわ等にて掲載します。

## センター主催オンライン講座への参加方法について

- ①Zoom アプリを起動またはサインインをして、「ミーティング参加」をタップまたはクリック。
- ②「ミーティングID」にセンターから配布された数字(10桁)を半角で入力。
- ③「スクリーンネームを入力」に、名字か下の名前を入力し、「参加」をタップまたはクリック。名前を参加名簿と照合していますので、入力漏れや誤りのないようご注意ください。
- ④パスワード入力画面が出てきたら、当センターから配布されたパスワードを入力。
- ⑤「他のユーザーの音声を聞くにはオーディオに参加してください」が出ると、「インターネットを使用した通話」または、「コンピューターでオーディオに参加」をタップもしくはクリック。
- ⑥ホスト(当センター)が参加を許可しますので、それまでは待機しててください。ホストが入室を許可すると画面が変わり、自分と他の参加者の顔が表示されます。

以上でオンライン講座へ参加することができます。

※お持ちのパソコンや、タブレット端末、スマートフォンに「Zoom」のアプリをインストールします。パソコンやタブレット端末では、カメラやマイク機能が必要ですので、事前にご確認ください。

※「Zoom」には、**無料版**と**有料版**があります。当センター主催講座へのご参加は、無料版(ベーシック)で十分ですので、インストールの際にはご注意ください。



### 【各講座共通】

お問い合わせ(申込) 沖縄市男女共同参画センター  
TEL.098-937-0170(平日午前9時～午後5時)  
FAX.098-937-0175  
E-mail. a32sankaku@city.okinawa.lg.jp

きらめきフェスタ2021  
いまこそジェンダーのモヤモヤを話そう  
～決めるのはわたし、変えるのはわたしたち～を開催しました

沖縄市男女共同推進事業「きらめきフェスタ 2021」を去る10月30日(土)に開催しました。毎年多くの方にご参加いただいています「きらめきフェスタ」ですが、今年はコロナ禍という事もあり、初のオンライン開催となり23人の方にご参加いただきました。

女性の政治参画や、管理職数の占める割合が増えると、生活の豊かさへ繋がるのに、なぜ、日本は女性リーダーの割合が未だ伸び悩んでいるのか。今回は、琉球大学ジェンダー協働推進室長の喜納育江教授を講師にお招きし、なんだかモヤっとしているジェンダー問題についてご講話をいただきました。

講演会の中で、日本の人間開発指数 HDI (Human Development Index) は、2020年188ヶ国中19位であるが、男女格差指数 GGGI (Global Gender Gap Index) は2021年において、156ヶ国中120位であると話されました(アメリカ合衆国30位、韓国102位、中国107位)。

特に、日本の政治の分野における女性の力は圧倒的に弱く、経済では女性の非正規雇用が多くなっている。その根底には、ジェンダーに関する無意識の偏見(アンコンシャスバイアス)があり、客観的な評価の妨げになっているということでした。その無意識の偏見を克服するためには、個々の女性が知識を高め、経験の機会(研鑽)を増やすことが、政治や企業での意思決定の場の女性の数を増やし、これまでの景色を変えることにつながるとお話されました。



き な いくえ  
喜納 育江氏 琉球大学ジェンダー協働推進室長

1996年琉球大学着任。2000年にペンシルベニア州立インディアナ大学よりPhDを取得。専門はアメリカ文学、ジェンダー研究。編集著に「沖縄ジェンダー学」(大月書店全3巻)など。2012より琉球大学うない研究者支援センター長、男女共同参画室長を務め、2015年よりジェンダー協働推進室長就任。  
2021年3月より沖縄県男女共同参画審議会委員。

～参加者からの質問～

教師の方から：「学校の現場では、女子生徒の方が生徒会役員の数が多い。成長していくにつれ、女性がリーダーになる機会は本来平等であったのに、どこから奪われていくのか」との質問に対し、「私も教師です。同じようなことは感じています。私の大学でも女性の方が元気で、企画力や行動力があります。小中高校、大学も含めて、その中の環境であれば、十分に能力を発揮できる土壌があるのですが、なぜか社会に出ると、つぶされてしまう会社があります。もちろん活躍できる会社もあります。私のところで、女性活躍の考え方を学んで世に出ただけけれども、活躍できる場がない組織の中にいるという悩みを相談にくる卒業生もいます」と回答しました。

続いて「私たち教師が、生徒にかけてあげられる言葉のアドバイスをいただきたい」との要望には「自分がやりたいことがあるのであれば、いろんな人とコミュニケーションをとって、そのやりたいことの土壌を作り、機会をもらって、自分のスキルを高めていくことが重要です。社会に出たら、学校で学んだような環境ではないかもしれないけど、あなたが学校で培ってきた能力であれば、絶対に乗り越えられるから頑張ってください」という同じ教師である視点から喜納教授の回答がありました。

その他にもご質問いただいた皆様にはお礼を申し上げます。ありがとうございました。